

令和6年度 議会運営委員会視察報告について

委員長 田中雅光
副委員長 黒岩重彦
委員 川野悦子
委員 内山伸博
委員 佐藤 源
委員 高木良郎
委員 大場美紀
委員 後藤理恵
議長 井上勝彦
副議長 新原善信

視察日：令和6年11月13日(水)

視察先：三重県四日市市

視察内容：議会改革について

- ・市民参加の取り組みについて
 - HP[まちだん]について
 - 議案に対する意見募集について
 - 市議会モニター制度について 等

四日市市は、日経グローバルや早稲田大学マニフェスト研究所が行っている議会改革調査において、1位、2位を獲得している議会改革では先進的な市議会です。今回は、議会のホームページ上で展開していた「まちだん」という企画ものの議会DX推進ツールや議会モニター制度等について視察を申し入れました。

1. 議会ホームページ「まちだん」について

「まちだん」とは、デジタル技術を活用して、すべての世代に開かれた議会を目指すWEBプラットフォームで、令和6年7月「四日市市議会×まちだん」を期間限定で公開し10月31日まで公開していました。

特徴として

- ① 情報のオープン化
- ② 双方向コミュニケーション
- ③ 多様な住民の参加
- ④ 教育としての利用
- ⑤ 信頼性のあるプラットフォームなど

私たちが訪れたときは、議会HPに設置している「まちだん」は議会の情報発信や市民とのコミュニケーションツールとして半年間の実証実験を行いその評価を検証している段階でした。議員の一般質問後に30秒動画を撮影しYouTubeで公開し、議会中継録画のアピールを行っていたり、議員一覧の中から市民が直接議員を選択し市民相談を行えるシステムなど、ユニークな内容が含まれています。工夫すれば様々な展開ができそうなツールが沢山あり魅力的な企画でした。現在は費用対効果を含め今後の運用については検討中とのことでした。

2. 議案に対する意見募集について

議案聴取会後に市民に影響すると思われる議案を選んでいる。4つの委員会で4から8議案程度、最近は意見が出ないことも多いので市民が関心のある議案を選択するように心がけていました。

意見募集の行程

- ・意見を募集する議案を広報公聴委員会で選定
- ・市議会のモニターの方には知らせると同時に市議会のホームページに掲載
- ・募集期間は2週間ほどでメールやFAXで回収する
- ・提出された意見は広報委員会で確認
- ・市議会ホームページに整理した結果を掲載し議員全員に周知
- ・常任委員会での審査に活用

3. 市議会モニター制度について

議会のモニター制度については、地区の選出に加え市民から公募や大学生など1年の任期で最長3年まで再任できる制度で、本会議や委員会の傍聴や議会だよりの購読などを行い、意見聴取するもので、無報酬で行っていました。このモニター制度は、最近他の議会でもよく見かけるようになりましたが、議会に対する厳しい意見も含め本質的な意見の聴取ができるように感じます。こういった率直な意見に耳を傾け議会の在り方を本質的な方向へ変えていくことが、市民との連携の取れた議会運営が可能となっていくと思っています。

4. 委員会のテーマ募集について

平成28年年度から議会基本条例に掲げる市民参加の一環として、委員会でのテーマ設定の参考とさせていただくために年一回市民から募集するもので、令和6年は17件のテーマを頂いた。その後全議員へ配布し、ホームページへも掲載されています。

5. SNSの活用について

市議会の情報を多世代へ届けるための発信を行ってこられ、議長の活動など記事の作成は事務局で行っていました。

アプリ	フォロワー数	開始時期
Facebook	278	平成28年4月～
Twitter	120	令和2年4月～
Instagram	338	令和2年4月～
LINE	1267	令和5年11月～
threads	90	

令和6年度 議会運営委員会視察報告について

委員長	田中雅光
副委員長	黒岩重彦
委員	川野悦子
委員	内山伸博
委員	佐藤 源
委員	高木良郎
委員	大場美紀
委員	後藤理恵
議長	井上勝彦
副議長	新原善信

視察日：令和6年11月14日（木）

視察先：滋賀県野洲市

視察内容：議会改革について

- ・議会懇談会について
- ・タブレット端末の活用について

1. 議会懇談会について

・野洲市では過去に本市が実施していた市民懇談会と同様に参加者の減少と固定化などを理由に『懇談会』の見直しを行い、「市民懇談会」と「出前懇談会」の2つに区分し、再スタートしていた。

市政運営に係る重要案件等で市民の意見を聴く必要が生じた場合には、懇談会のテーマを定めて事前学習のもとグループ討議による『市民懇談会』を実施しており、また直接市民の意見を聞くため、新たに積極的に各種団体に出向き、市民主体で開催やテーマも市民自らが設定する『出前懇談会』も数多く実施されていて、市民と議会との距離を近づけ市民を意識した議会運営がなされていた。

・「文化3施設の在り方について」をテーマに開かれた「市民懇談会」は、開催時間を分けることによって属性の違う人が参加し、より幅広い年代層の方の意見を聞くことが出来、議会として執行部への提言に繋がり、政策決定の後押しとなった。

・出前懇談会は市内に住むおおむね5人以上の団体がテーマを明らかにして議会へ申し込むこととなっており、テーマに応じて出席委員の選任を行っていた。

所感① 懇談会を開催する際は、市民の参加を促せる関心の高いテーマを設定することが大切である。

所感② 市民からの意見を聴取する場合、政策形成のプロセスにしっかり組み込んでいくことにより市民との連携の取れた形が出来上がっていくのではないかと感じた。

所感③ 市民から意見を聞いた後どのようにその意見を集約し、問題解決に繋げていくかが大事だと考える。

2. タブレット端末の活用について

・メリットとして、効果的な活用については資料共有が簡素化されペーパーレスが進んでコスト削減につながることは理解出来たが、課題としてタブレット操作に個人差がある為会議の進行上問題が出ていた。

所感① タブレット端末の活用について取り組みは進めているものの、議会全体として目的意識が今一つ不明確のようで、十分な効果が表れていないように思えた。

所感② 本市もこれからタブレット端末の活用を推進するに当たり、メリット・デメリットをしっかりと捉えて進めていく必要があると感じた。

所感③ 議会活動の効率化や透明性を高めるために、議員間でのタブレット端末の活用促進を図り、運用や活用方法を共有していきたいと思う。